

東京バッハ合唱団のサポーター 「ちぐさ会」有志の方々の座談会

2002年1月17日、中澤富士子様宅（東京・中野）

出席者：佐野庄子（団員）、猪狩恭子（後援会員）、
黒田みつ子（同）、中澤富士子（同）
司 会：大村恵美子

はじめに

— 今日、現在、東京バッハ合唱団に関わっておられる「ちぐさ会」のメンバーの方々の中から、4人の皆様にお集まりいただいて、気のおけない同年輩の新春放談会のようなものと企画いたしました。最近合唱団の名簿を新しくした機会に、「ちぐさ会」の方々が7人もいらっしゃることに気づき、演奏会ごとに多数ご来聴、恩師までが終了後の打上げにも残ってくださる有難さに、ぜひとも感謝の意を表したと思うようになったのです。

「ちぐさ会」というのは、1948年に旧制都立第五高等女学校5年を、翌1949年に新制高等学校（現在都立富士高）3年を、卒業した同期生の会で、毎年クラス会を開き、私も、それほど早くから毎回というわけでもなかったのですが、会があるごとにバッハ合唱団のPRをさせていただいて、多くの方々にはうるさかったでしょうけれど、そのPRのせい、1993年に佐野さんが入団なさった頃から、一般に、ご家庭も大分おちつき、公職なども引退されたりして、ぼつぼつゆとりもでき、バッハ合唱団にも関わってくださる方がふえてきました。

後援会員にはもうお2方いらっしゃり（山田弘子様、吉田佐貴子様）、そのうえ、演奏会を来聴される方は、毎回数人いらっしゃいます。また、岡崎にお住まいの渡辺朝子様は、国際的な陶芸家で、私個人にも芸術面で多くを啓発していただいている関係で、団友になっていただいています。ご都合のつくかぎり、いつでも演奏会には岡崎から足を運んでくださる、熱心なサポーターでいらっしゃいます。

「人生50年」をオーバーした友情

— ここで振りかえってみますと、昔は「人生50年」と言われたものだったのに、それを10年以上も軽く越えた頃から、ご来聴、入団、入会と、わずか数年

間だった少女時代の絆をとりもどして、さらに新しい関係をつくり出してきた私たちの交わりとは、なんと息の長い、貴重なものなのでしょうか。

今日は、合唱団の月報紙上をお借りしての座談会なので、「ちぐさ会」そのもので花を咲かせるというのは少し我慢して、この合唱団に馳せ参じてくださった同志としての、限定的・禁欲的な方向を保ちながら、お話を進めさせていただきたいと思います。

まず、敗戦直後、その年の3月に校舎を空襲で焼かれて仮住まいだった学校では、放課後全校合唱がつくられ、その指揮を、私が仰せつかりました。全国コンクールでも第2位まで行ったりして、けっこう盛んだったと思います。そんな記憶もあって、私がバッハ合唱団の公演をするようになってから、応援してあげようというお気持ちを抱いてくださった方々が出てこられたのだと思います。

最近になって私は知るようになったのですが、旧制都立六中・現新宿高校のOB合唱団（後援会員の野村勝時様が所属しておられます）は、「六声会」という男声合唱で、平均年齢65歳、ここも在校当時からコンクール優勝を何度も経験していたそうです。2000年に創立50周年を祝い、さすがに知的で、老いなど感じさせない、颯爽たる歌声を、私は聴かせていただきました。

それに対して、私自身、在校当時かなり不良だったもので、卒業後はほとんど学校によりつかず、そのせいで同窓の皆様とのコンタクトにも、何十年もおくれをとってしまいました。バッハ合唱団のできたのが1962年でしたから、そのとき皆様に呼びかけていたら、と悔やまれますが、「六声会」とちがって、やはり現実問題としては、女性が学生時代からひきついだ趣味を、一貫して保ちつづけるということは、そうたやすいことではないだろうと思います。子育ても終り、一息ついた頃に、昔のものを取り戻す、というのが自然なのかもしれません。とはいっても、母校への呼びかけをずっとためらってきたのは、私の不徳の致すところであることに違いありません。

卒寿の恩師のお励まし

— 長々と前置きをひとりで喋ってきましたが、これからまずお一人ずつに、ご自分とこの合唱団とのことを、何でもけっこうですから、お話しただきたく存じます。その前に、恩師・秩父良子先生のことをご紹介させてください。

ひと月前の12月16日の定期演奏会にもご来聴くださり、打上げの席にもおいでいただいて、お見かけからはとても信じられないのですが、昨年90歳の卒寿を祝われた秩父先生。今日もお誘いして、お話を伺う予定だったのですが、残念ながら少しお疲れのご様子で、ご出席いただけませんでした。

1998年に、ちぐさ会で文集をつくることになり、その年にたまたま幹事をつとめた私が、先生のエッセーをたくさんいただいて文集に入れた、その時からのご縁で、先生も中澤さん方とご一緒に、演奏会にいらしてくださるようになったと思います（別紙「ちぐさ会文集」抜粋。先生のエッセーはp.28-p.33の6ページにわたって所収。抜粋には冒頭のみ収載）。

中澤さん、先生のご近況を少しつけ加えていただけますか。

中澤 先生からのご伝言がありますので、それを申し上げます。演奏会に伺って、熱心な聴衆の数が多く、まずご盛会ぶりに、それから日本語で歌われることに驚きました。合唱団員の皆様、どうぞ、私の教え子の小村さんを、皆さんで助けてあげてくださいね、おねがいします、とおっしゃいました。

私たちは、戦争中のことで、十分に授業を受けられなかったのも、それをとりもどしたいという気持ちから、まだ現役でいらした先生の余暇に、私たちにも古典を教えていただきたいと願い出まして、源氏・平家物語、万葉集とか、古いものを次々に、現在までとどめることなく教えていただいています。中野の近くの公的な施設で20人くらい集まっています。先生おひとりががんばってくださって、いつまでも先生は私たちの大先生なのだなあと、痛感しています。

合唱体験の深みに

— 次に、まだ現役のお仕事をフルタイムで務められ、子育て（男子3人）を終えられたお一人暮らしの有利さで、入団してこられた佐野さん、どうぞ。

佐野 高校の頃は、レコード鑑賞係りのようなことをしていましたが、高3の時、東京高校からの申し



左から佐野、中澤、猪狩、黒田（中澤宅にて）

入れで、合同で混声合唱をしたことがあって、そこに私も参加し、初めて混声合唱の楽しさを知りました。教会でも聖歌隊に入って宗教音楽の美しさにふれ、KAY合唱団にも誘われて「メサイア」「ロ短調ミサ曲」など歌いました。富士高校の安藤タカ先生もそうとうきびしい方でしたが、KAYの奥田耕天先生からもしごかれました。そこでオーケストラと一緒に演奏するすばらしさを体験しました。

夫の死後、子育ても一段落した頃に、またご無沙汰していた音楽をなんとかとり戻せるかなと思って聖歌隊に復帰し、ちぐさ会のご縁でバッハ合唱団のご案内もいただきました。それがドイツ演奏旅行3回目の年。次の機会にはドイツにも行けるかしらという期待とともに、1993年の演奏旅行直後に入団させていただきましたのです。

皆さんいい方ばかりで、とても楽しく、バッハは難しいのですけれども、声もだんだん出るようになって、楽しくつづけています。1997年のドイツ演奏旅行はすばらしい体験でしたが、帰国後、軽い脳梗塞で入院、それもリハビリに成功して、今では元どおり毎日通勤し、合唱団生活も楽しんでいます。これも合唱団のおかげだと思います。

— 合唱は体にほんとにプラスになるようで、合唱団さまさまですね。

親友の指揮に涙

— ここで少し山田弘子様のことを。今日はご欠席ですが、合唱団創立の翌1963年に発足した後援会に、先頭きって入会されたのが山田さんでした。現在出版中の「バッハ・カンタータ50曲選」も、さっそく購入しておられる、ありがたい友で、心から感謝しています。

次に、母校の富士高校で家庭科を教えておられ、生徒会誌のお世話もしていらした猪狩恭子さんが、

私に原稿を依頼してこられ、そのご縁で後援会に入会されたのだと思います。在学中は、背の低いグループの仲間で、私のことをエミちゃんと呼びならわしていましたが、それが学校中に蔓延して、今でも演奏会の打上げの席などで、ちぐさ会の面々が恵美ちゃんを連呼するので、団員が「いいですね、そんな友達って」とうらやましがってますよ、と中澤さんの弁です。

では猪狩さん。

猪狩 学校では、安藤先生に課外でピアノを教えていただき、おかげで幼稚園の免許もとれました。恵美ちゃんにはとっても仲良くしていただいて、疎開しても、本の中味を手書きにして送ってくださったり。ずっとご活躍に注目していました。ほんとうは合唱団に入れていただきたかったのですが、仕事に追われつづけて、後援会に加えていただけただけで、とても光栄に思っています。

戦後、合唱コンクールで共立講堂で最後に「春の小川変奏曲」を、恵美ちゃんの指揮で歌い終えたとき、涙が出てとまらなかったのです。今でも、バッハ合唱団の演奏会で、指揮を終えて聴衆のほうに向かされると、ワーンと涙がこみ上げてしまうのです。

もうひとつ、古い話ですが、小学校の頃とても尊敬する先生がいらして、ご自分の尊敬する音楽家はバッハだと言明しておられたので、バッハという名は、私にとって特別な存在になって、ずっと心に宿っていたように思います。ですから、バッハ合唱団との出会いはとても幸せです。

— 遠い昔を、忘却の淵から呼び戻されたような気持ちです。

バッハに力づけられて

— 次に、黒田みつ子様。富士高校の合唱でも、リーダー格の存在でしたから、もっとしっかりとお願いしていれば、ずっと早くから入団していらしたかもしれないのですが、のちにクラス会でお話する機会が重なり、演奏会にもいらして下さって、1998年にご主人が亡くなられたあと、私のすこし強いおすすめに、応じてくださり、「クリスマス・オラトリオ」に出演してくださいました。私は大喜びだったのですが、間もなくご主人の姉上様の介護に明け暮れることとなり、現在に至っているのです。

黒田 入学時は、すごい軍国少女、2年生からはがらりと反撥するようになりました。ミッションスクール出身の母は、音楽と英語がとびぬけていたよう

で、歌うことが好きなのは母譲りだと思います。仕事人間とばかり思っていた父も、琵琶などやっていた時期もあったようです。

合唱コンクールのことは、細かいことまで今でもよく憶えています。私の高校生活のなかの一番のイベントだったと思います。

結婚してからも、夫も私が歌うのを喜んでいましたので、沼津に住んでいた間も、個人レッスンで勉強していました。多摩市に移ってからは、まだ文化的なことの何もない新開地で、女声コーラスができて1年目に入れていただき、運営面でもお手伝いするようになりました。それからは合唱グループもふえ、今では多摩市のなかに40団体くらいもあります。新しいところから始めて、続けてきたというのも、意味はあったのだと思います。

4年前に夫が亡くなったとき、私はとても落ちこみまして、半分以上、鬱の状態だったのです。もう何もしたくなくて、家にこもっていたところ、大村さんからお声をかけていただき、目白の練習場が、いつもアシスタントをしている夫の姉（黒田初子様、登山家・料理研究家）の家のすぐ近くでもありましたので、帰りに寄って、お仲間に入れていただくようになりました。

バッハを歌って、ひじょうに体のなかに力が沸いてきて、鬱の状態から解放されたのだと思います。合唱団の皆さんにもよくしていただいて、それも嬉しかったのです。おかげさまで、助けていただいたと思い、ずっと続けたいと希望していましたが、間もなく95歳すぎた義姉の体、それに古い家のことなどで伺えなくなって現在に至っています。もう厄介なことばかりで、見通しがつかないでいます。

練習に加えていただいて感じたことですが、団員にしても、そのまわりの方々にしても、大村さんを取り囲む層の厚さに、感じ入りました。単にファンとっていいかどうか、彼女の長年の研究と努力と、その存在に影響を受けている方々が、とても多く、音楽だけにかぎらず、そういう人の信頼の分かち合いが生きていて、すばらしいと思いました。練習の過程であれこれあっても、結局りっぱなステージが出来あがり、みんなしあわせな世界に包みこまれてゆくのです。これからは、健康第一で、ずっと続けていってくださることを期待しています。

— たいへんなご苦労のただなかを、なんとか乗りきっていたきたいと願っています。



左から黒田、中澤(前)、佐野(後)、大村

バッハに近づこうと

— 吉田佐貴子様も、後援会員としてずっとご熱心に支援してくださっておられますが、ご両親の介護で、今日もご参加になれなかったのは残念です。

そして、「ちぐさ会」でも中心的な存在でいらっしゃる中澤さん。たびたび演奏会のあとの打上げ会にも残ってくださって、合唱団員の方々ともすっかり親しくなっているようですが、最近後援会にご入会くださいました。入会するには、バッハをよく知らなければ、と誤解をされていましたらしいのです。私の顔をみるときまっ、バッハの勉強をするには、と向学心をのぞかせるので、恐縮します。

私たちの年頃になると、なんとか身边を整理縮小する方向に気が向かうものですが、ここで新しく会員になってくださるといふ、そのことに私は、悠揚迫らぬ私たちの友情を思って、感動するのです。

中澤 私がいちばんバッハとかコーラスとかに縁遠い人なのですが、演奏会が私のお稽古ごとの発表会の日取りとよく重なることがあったりして、なかなか伺えないでいたのですが、大村さんから「死ぬ前に一度は来てよ」と言われて、あ、それはそうだ、と思いなおして、伺いました。会場についたら、ほんとうに大勢の方が溢れていて、ステージも演奏の方々でいっぱい。こんなにたくさんの方が彼女を支えていらっしゃるのだと、感じ入りました。

私も森鷗外の旅でライブツィヒにも行き、その後、アイゼナハも旅しましたし、すこしはバッハに近づいたように思えて、去年はバッハの記念年でたくさん第3チャンネルなどでバッハが演奏されるのを、ずいぶん聴きました。

合唱のコンサートといったら、ピアノ伴奏が何かで、仲間うちみたいなものも多いのに、溢れるばかりの熱心な聴衆のなかに入って、私もおそまきなが

らバッハを分かろうとしているところです。

— 中澤さんの向学心には、頭がさがるのです。

さて、ここからは、いよいよフリートーキングで、戦後の50余年の音楽事情とか、戦後の女性の歩みに対する反省・評価とか、幅広く話し合いたいと思い、さらに話し合いをつづけました。脱線するどころでなく、実際にとっても考え深く建設的な、皆さんの発言が相次いで、テープにも収めたのですけれど、残念なことに、月報としては、スペース的にオーバーとなってしまいました。

今日の集まりを終えて、私が実感したことは、私たちの合唱団を支えてくださる、この「ちぐさ会」の方々が、それぞれに戦後の日本文化を、着実に育てた人たちだったのだということです。おおざっぱに言えば、経済大国を目指して企業戦士として邁進させられた男性を支え、その国策の下積みとなりながらも、日本の文化面を大きく短期間に発展させてきた大きな力は、やはり女性たちだったのではないかと思っています。ただ殺伐とした打算の国になり下ることなく、なんとかやってこられたのは、女性の強い意志が大きかった。それにしてもあまりにも牢固たる封建制の束縛で、目に見えた社会進出のスピードは、いまだに遅々たるものだが、これからは、男性も本質的な文化の問題に目覚め、制度を改革し、女性を社会的に働きやすくして、ほんとうの意味の文化国家で、先進諸国の仲間入りができるように努力しなければ、という思いです。

私たちの合唱団に関わる方々は、男性も女性も、ほんとうにまれなほど貴重な文化の友であり、創造者であるといえます。今年も、大きな期待をもって、信じあいながら、日本という地域を、真の意味での文化国家に近づけるよう、力を出してゆきましょう。今日は、ほんとうに幸せで愉快な一日でした。(完)

《口短調ミサ曲》特別練習

5月12日の第91回定期演奏会に備え、次のとおり2回の特別強化練習を行ないます。

遠隔地域に在住の出演予定者ばかりでなく、後援会員や一般の方でも、臨時に練習に参加できます。詳細は合唱団事務局にお問合せください。

会場：桜新町・世田谷中央教会

日時：2002年2月11日(祭日)、3月21日(祭日)

いずれも10:00-17:00

練習曲目：「口短調ミサ曲」(楽譜は各自持参)



活気溢れる新年会・初練習

2002年1月12日（土）

11：15 東京バッハ合唱団事務局訪問（千歳船橋）

陽春のような日差しがさしこみ、お座敷の掘りごたつもないほどの暖かさ。1冊ずつ、お年玉の「新年会福引文庫」が配られ、「主はわがためのめる まことの牧人」（BWV104）、「イエスとともにあらん」（BWV124）の2曲のコラールを歌い初め。

12：30 〈ビストロ・オー・ランデヴー〉で新年会

出席者13名

大村恵美子、S川合、柿沼、菅原昌、片岡、高橋、重藤、四方、A梅干野、T大村、B加藤、渡辺、佐々木

15：30 初練習（桜新町・世田谷中央教会）

復団、新入団その他団員の出席多く、この日のために、またまた後援会員の方から届けられた提供品による新春大バザーも完売。

この日は、新年への団員の特別な意気込みが感じられる、たのもし合唱団の第一歩だった。

後援会 会計報告（2001年10月～12月）

（単位・円）

	内訳	
収 入		469,000
後援会費	396,000	
寄付	73,000	
支 出		494,091
事務局費補助	210,000	
渉外費	50,000	
通信費	140,451	
事務費	79,465	
雑費	14,175	
差 引		△25,091
前期より		△162,950
累 計		△188,041

【継続会員】川戸龍夫、長谷川田鶴子、豊田雅子、三浦多佳子、板木 亮、西村清志、吉村路子、野田富夫、加藤道子、高田小夜子、小口幸成、安原美世子、本郷容子、吉井 修、小島陽子、武藤京子、松尾正子、桜井和子、岡本シゲ子、吉田佐貴子、村松政子、山本栄子・裕子、布施靖子、澤田 望、森 彬、猪狩恭子、落合武四郎、阪根隆司

【新入会員】笠原維信

【寄付】田辺たつ子、国吉三郎、山本栄子、匿名氏、猪狩恭子、阪根隆司

【切手多数】瀬底恵子、天田 繁、海老根紀子

後援会 年間収支報告

	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度
収 入	2,581,500	2,128,500	2,044,000	1,416,000
後援会費	2,428,000	1,964,000	1,378,000	1,143,000
寄付	153,500	164,500	666,000	273,000
支 出	1,984,814	2,055,026	2,043,937	1,805,025
事務局費補助	1,170,000	840,000	840,000	840,000
渉外費	98,600	342,280	187,214	118,000
通信費	252,802	435,585	428,466	416,640
事務費	231,681	337,161	436,449	416,160
諸会費	0	100,000	0	0
雑費	231,731	0	151,808	14,175
差 引	596,686	73,474	63	△389,025
前期より	△469,339	127,347	200,821	200,884
累 計	127,347	200,821	200,884	△188,041

東京バッハ合唱団 2002 年度計画 —創立 40 周年—

◇第 91 回定期演奏会—創立記念公演 I

5 月 12 日(日)16:00、石橋メモリアルホール
《ロ短調ミサ曲》

◇創立 40 周年〈記念誌〉発行

◇創立 40 周年〈記念懇親会〉

7 月、内容は近日中にお知らせいたします。

◇〈ばっはめいと〉第 19 回演奏会

7 月 21 日(日)10:30、経堂・ヤマハホール

◇野尻湖合宿(長野県)

8 月 1 日(木)ー4 日(日)、野尻湖レイクサイドホテル

◇野尻湖特別演奏会

8 月 3 日(土)19:00、神山教会(野尻湖畔)
カンタータ第 124 番《イエス ともにあらん》
カンタータ第 104 番《まきびと 主よ 聞けよ》
カンタータ第 150 番《なれを 主よ われは仰ぐ》他
Vn.小田幸子、Cl.内山厚志、Pf.内山亜希
Chor 東京バッハ合唱団

◇第 92 回定期演奏会—創立記念公演 II

12 月、石橋メモリアルホール
カンタータ第 61 番《いざ来たりませ 世の救い主》
《マニフィカト》BWV243a/243

バッハ・カンタータ 50 曲選 出版ニュース No.12

第 3 期全 10 曲、発行

・大村恵美子訳詞による「バッハ・カンタータ 50 曲選」第 3 期の全 10 曲 (BWV71、76、80、104、110、124、131、150、190、196) が、1 月 30 日に同時発行されました。ご予約をいただいている皆さまには、さっそく順次お届けしています。

・これからお申し込みくださる方には、お求めになりやすいように、今期配本分もふくめ、各期 10 曲ずつのセットパックを特別価格で用意しています。お申し込みいただき次第、お送りいたします(送料当方負担)。

- ・第 1 期：特価 ¥13,800 (定価合計¥14,900)
- ・第 2 期：特価 ¥15,000 (定価合計¥16,800)
- ・第 3 期：特価 ¥14,800 (定価合計¥16,500)
(消費税 5%をご負担いただきます)

・なお、当シリーズは、これまで全国の有名楽譜・楽器店でのみ扱っていただいていたのですが、昨秋からは、全国のキリスト教書籍のあるお店でもお買い求めいただけるようになりました。お近くの販売店でも、お手にとってご覧いただければ幸いです。

・各期の 10 曲セットに専用の〈帯〉ができました。すでにお買い求めの皆さまには、第 1 期、第 2 期分をお送りいたしました。まだ届いていない方がいらっしゃいましたら、どうぞお申し出ください。レモンイエローから山吹色をへて、橙色にいたる 5 段階グラデーションを書棚でお楽しみいただけます。

「カンタータ 50 曲選」第 3 集の豪華な 10 曲

大村 恵美子

第 3 集には、はっきりとした特徴がある。合唱の豊富な初期カンタータが 4 曲 (BWV71、131、150、196)、1723-25 年の、ライプツィヒにバッハが移住して、トーマス・カントル着任早々の意欲溢れるカンタータが 6 曲 (BWV76、80、104、110、124、190) と、大きく 2 つに分類され、どのカンタータも愛好者が多い。東京バッハ合唱団も、これまで 4 回のドイツ演奏旅行で、これらから 6 曲 (BWV71、80、131、150、190、196) もレパートリーに入れて各地で演奏してきた。

ちなみに、これまで出版済みのものについて言及すると、第 1 集は、BWV 4、21、106 の 3 曲など、合唱も多く、演奏意欲を鼓舞されるので、需要がたい

へん多い。また、独唱用カンタータとして、BWV56 (バス用)、BWV84 (ソプラノ用) も、愛好される曲である。

第 2 集は、なんとといっても BWV140 の人気が抜群。それから BWV29、68 なども有名。クリスマス・シーズンのものが 4 曲入っていて、バッハの初期から最後期のものまで、多彩なクリスマス音楽がたのしめる。

- 1714 年 待降節用 BWV61
- 1716 年 降誕節用 BWV63
- 1725 年 新年用 BWV41
- 1731 年 待降節用 BWV36

バッハのカンタータは、まさに多彩な宝庫として、私たちが演奏へと強くひきつけ誘うのである。